

事業計画書

現在の地域課題に対する本事業での実施内容	<背景・課題> 昨今佐久地域には移住者が増加している。都心から自然を求め、受けた教育を求めてきた移住者にとって佐久地域は住みやすい。求めてきたものを得られ、住み心地もいい。ただ一方で都心に比べて情報量の少なさや、文化芸術の多様性や機会は圧倒的に少ない。都心からの移住者は、住みやすさを感じつつもまだ仮の住まいと考える移住者も多いのが現状だろう。常に感じるわけではないが、ちょっとした不便さや物足りなさが、いつかは都心に戻るという考えを拭いきれない一因と考える。佐久地域でもコスモホールという立派な公共劇場を有し芸術の鑑賞機会はあるが、松本市や長野市、上田市のサントミュージゼに比べ、演目は少ない。また子どもにとって身近に感じられるものも少ないように思う。芸術鑑賞の機会は、生活の中に非日常の楽しみや豊かさをもたらすばかりでなく、未知の世界、他人の創り出す自分にはない世界観に触れ、自分がどう感じるのかと言う自分を見つめる良い機会となる。 <取り組みの必要性> 佐久地域でも都心のような本物の芸術に触れる機会が身近にあることにより、移住者のみならず、地域住民の生活がより豊かになる。劇場での多様な舞台芸術公演の開催は「文化を創っていく場」としての劇場の必要な機能である。 また、舞台芸術公演を単に提供するだけでなく、子どもがより身近に感じられる公演となるよう、子どもと共につくる子どもが主役となる事業展開が必要と考える。 ゆえに、「こども実行委員会」を組織し、未来の佐久地域の文化の担い手を育てると共に、佐久地域ではなかなか見られない本物の芸術公演を開催する。
対象となる人・範囲	佐久地域の子どもと保護者 こども実行委員会：15名募集 公演：定員150名 ワークショップ：定員20名
事業の効果、達成目標 （達成目標はできる限り数値で示すこと）	○本事業にかかるコスモホールののべ来場者数350人（うち6割以上が子ども） ○公演後の来場者アンケート また来年もこのような公演をやってほしい…8割以上 伝統芸能に興味を持った…5割以上 こども実行委員会に参加してみたい…3割以上 ○こども実行委員会へのアンケート またこども実行委員会をやりたい…8割以上 文楽への理解が深まった…6割以上

記載ポイント

事業の
・公益性

詳細

(活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する)

記載ポイント

事業の
・独自性
・発展性
・実現可能性
・団体の自立促進

①人形浄瑠璃文楽座による文楽公演・ワークショップ実施

○日時：2023年10月28日（土曜日）

○場所：コスモホール小ホール・会議室

11:00~12:00 公演+レクチャー（定員先着150名 子ども一人につき保護者は一人まで参加可）

演目1『二人三番叟』

演目2『伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段』

出演：太夫1名、三味線2名、人形遣い6名

14:00~15:00 ワークショップ（定員20名 希望が多い場合抽選）

○観覧無料

○広報手段：ホームページ開設、SNSにより随時情報提供

佐久市教育委員会に後援をいただき（現在申請中）佐久市全小学校・佐久穂町小学校にチラシ配布、コモホールなど公共施設への配架・イベント時の配布依頼
ケーブルTV、FMさくいだいらにおいて告知

②子ども実行委員会を組織する

今回は助成金申請の都合、公演内容を事前に決めてしまったが、次年から公演内容から子どもと共に決めていく実行委員会を組織する。小学校に実行委員募集のチラシを配布し、15名程度募集し、月一回実行委員会を開催する。

○募集方法：佐久市全小学校等に募集チラシ配布

運営委員会自体移住者以外のメンバーを増やしていき、こども実行委員会も移住者と地元の子どもが半分ずつになるよう努力する。

○スケジュール

5月募集チラシ配布・募集開始

6月実行委員決定 第一回こども実行委員会（チームづくり）

7月第二回実行委員会（チームづくり・公演詳細理解）

8月第三回実行委員会（ワークショップ内容検討）

9月第四回実行委員会（当日の仕事理解・分担）

10月第五回実行委員会（当日のシュミレーション確認）

11月第六回実行委員会（公演振り返り・アンケート集計）

12月第七回実行委員会（公演記録作成）

1月第八回実行委員会（公演記録作成）

2月第九回実行委員会（実行委員会活動まとめ）

3月第十回実行委員会（よりよい公演をつくるためには）

○特記事項

- ・人形浄瑠璃文楽座への公演依頼・必要経費や物品などの確認調整済み
- ・担当課：文化振興課への事前相談・教育委員会への後援申請中
- ・コスモホール小ホール予約完了
- ・新型コロナウイルス感染症対策：国・県が発進する感染症対応を参考に、基本的な感染症対策の取組を実施する。

重点テーマに 該当する理由	
翌年度以降の 取組	本事業は10年継続を目指し、次年度からは企業の協賛金を募る予定である。ゆくゆくは特定企業の社会貢献事業としてタイアップする形で実施したい。 こども実行委員会は毎年募集しメンバーを増やしたり、入れ替えを行うことで様々な子どもの交流の場となるようにする。翌年度はどんな公演を招聘するかからこども実行委員会で一から決めていく。